

平成 21 年度 第 2 回理事会 議事録

I. 会議名 : (社) 日本地すべり学会 平成 21 年度第 2 回理事会

II. 開催日時 : 平成 21 年 11 月 27 日 (金) 15 時 00 分～17 時 00 分

III. 開催場所 : 学術総合センター会議室 (東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1-2)

IV. 出席者 : 理事出席 20 名○、理事委任状 12 名△、監事出席 1 名○、監事委任状 0 名△

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
理事	丸井 英明	○	理事	櫻井 正明	○	理事	前田 寛之	△
理事	吉松 弘行	○	理事	末峯 章	○	理事	松浦 純生	△
理事	広嶋 孝也	○	理事	田尾 秀夫	△	理事	宮城 豊彦	○
理事	綱木 亮介	○	理事	千木良雅弘	△	理事	森脇 寛	○
理事	阿部 真郎	○	理事	千葉 則行	○	理事	八木 浩司	○
理事	伊藤 驍	△	理事	土屋 智		理事	山岸 宏光	△
理事	岩尾雄四郎	○	理事	寺田 秀樹	○	理事	山崎 孝成	○
理事	鵜飼 恵三	○	理事	東畑 郁生	△	理事	山本 哲郎	
理事	岡本 正男	○	理事	中村 浩之	○	理事	横山 俊治	△
理事	奥山 武彦	○	理事	西村 一徳		監事	上野 将司	○
理事	小野 慎吾	○	理事	日浦 啓全	△	監事	若井 明彦	
理事	宜保 清一	△	理事	檜垣 大助	○			
理事	佐々 恭二	△	理事	福岡 浩	△			

議事録署名人として、鵜飼恵三理事と阿部真郎理事を選出した。

前回の議事録案を確認し、原案が承認された。

I. 議事

I-1. 次期役員候補者推薦委員の選任について

丸井会長より、公益法人に認定された場合の理事数は現在の35名から20名に減少することから、次期役員候補者選任については、理事会の活性化、広範な分野からの人材登用、適材の公平で有効な配置、を考慮して選任したい旨の基本的な考えが述べられた。また、監事に関しては、学会の指導的立場を期待して、理事経験者を起用したい旨が述べられた。

こうした方針を基に役員候補者を選任してもらう推薦委員 7 名の提案がなされた。

この方針に対して、基本方針を内規などに明文化して残しておくことが必要であるとの意見が出された。

協議の結果、基本方針及び提案の次期役員候補者推薦委員が承認された。

I-2. 公益法人申請時の次期役員を選任について

大隈事務局長より、公益法人認定申請を行う際には、認定後の代表役員(理事20名を含む)を決めておくことが必要であり、また認定が下りるまでの間は現在の特例法人の現定款通り(理事35名以内)の運営が必要である旨が説明された。

丸井会長より、こうした移行期間の特例措置として、次期役員候補者推薦委員には新公益法人認定後の20名の理事を推薦してもらうこととするが、認定時期がはっきりしないため認定までの理事は暫定措置として現在の理事が引き続き役割を担うこととしたいとの提案がなされた。現在の理事の任期は来年度の総会までなので、認定時期が総会より遅れる場合を想定し、次回の役員選挙では、現在の理事の留任(定年対象者・死亡者を除く)及び公益法人認定時の理事、両者を選任する方法を実施する旨が提案された。

協議の結果、公益法人認定時までの役員選出方法が提案どおり承認された。

I-3. 甘肅省との研究交流について

吉松副会長から、甘肅省との研究交流についての経過報告及び共同研究の協定書の説明がなされた。

共同研究協定書の基本方針は了承され、今後相手と細部を詰めていくことで承認された。

I-4. 入退会者報告

大隈事務局長から、11月27日現在の入退会者が報告された。

退会者については、退会理由をヒアリングして退会者の減少防止や会員サービス向上に結びつけることが必要ではないか、との意見が出された。

入退会者が承認された。

II. 報告

II-1. 企画委員会報告

(1) 出版事業企画委員会

綱木専務理事より、Landslides in Japan の編集状況について説明がなされた。

II-2. 各部、支部からの報告(各部長、支部長)

各部長、支部長より、添付資料を基に活動報告・活動予定が報告された。

総務部から、4月の理事会開催場所が学士会館に決定したことが報告された。次回の理事会は、3月5日(金)に学術センター会議室で開催する予定である。

事業計画部から、来年度の沖縄大会の準備状況報告及び参加要請がなされた。また、5月の

シンポジウムのテーマを募集しており、応募してほしい旨が述べられた。新潟大会の総括としては、大学での開催も好評であり今後も検討していくこと、学生を対象として開催したサマースクールも好評であったことから今後とも発展的に展開していきたいとの報告がなされた。

編集出版部から、9月号発刊遅れの事情説明がなされ、期日入りの広告主に迷惑をかけたことから広告料は返還することが報告された。また、学会誌のアーカイブ化に伴い過去の著作権移譲に関する告知を行ったことが報告された。

国際部から、日台砂防共同研究調査団・ICL 年次総会に関する報告がなされた。ICL 報告に関しては、国際部の報告ではなく単独での報告が必要との意見が出された。

研究調査部から、緊急調査の進め方・部員の構成要件などについて検討を行っている旨の報告がなされた。

地震地すべりプロジェクト鶴飼委員長より、9月に実施した四川地震災害調査団派遣報告がなされた。

各支部から活動報告がなされた。

II-3. その他

大隈事務局長から、文科省より指摘を受けている「収支計算書」の処理に関する中間報告がなされた。

特別会計との統括表での不一致は、前年度額から修正することで了承が得られた。また、法人会計法に則った処理になっていない商品・貯蔵品に関する扱いに関しては、現在収支計算書から除外する注記を付けることで調整中であり、決着したら理事会で説明する旨が報告された。

以上

議 長 (印)

議事録署名人 (印)

議事録署名人 (印)